

I. 一般目標 (General Instructional Objective)

眼科診察に必要な解剖・生理を理解し、眼科救急疾患を含む主要眼疾患の基礎的診断能力と臨床技術を習得する。また、眼科の診療体制を理解し、将来専攻する専門科との診療連携の理解を深める。

II. 行動目標 (Specific Behavioral Objectives)

1. 眼科に必要な解剖および視機能と基本的疾患を理解する。
2. 基本的な眼科検査を理解し、眼科診断の考え方を学ぶ。
3. 細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定などの基本的眼科診察手技を習得する。
4. 視力障害、視野障害などの概念を理解し、緊急度・重症度を判断できる。さらに、必要な眼科検査を選択できる。
5. 眼科救急疾患に対する知識を習得し、実際に対処できる。
6. 眼と他科疾患(全身疾患)の関連を理解する。
7. 基本的な治療手技(レーザー治療、白内障手術など)の方法、手順を理解する。
8. 手術前評価、治療方針の決定、インフォームドコンセントの手順、術前術後管理を理解する。

III. 方略 (Learning Strategies)

外来研修:

- ・指導医とともに、マンツーマンで外来診療にあたる。
- 眼科問診、必要な検査指示、検査結果の理解、診察(細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、眼圧測定など)、診断、治療方針、処方(点眼薬の種類など)を実習する。
- ・視能訓練士の指導のもとに、眼科検査(視力測定、視野検査、眼球運動検査、斜視・弱視検査など)の意義を学習し、実践する。
- ・眼科特殊検査(眼底写真、蛍光眼底造影検査、眼底三次元画像解析、角膜内皮測定、超音波検査など)を指導医のもとに実習する。

病棟研修:

- ・指導医とともに入院患者の診察、治療方針、術前術後管理などを習得する。
- ・術前のカンファレンスで患者のプレゼンテーションができるようにする。
- ・専門医による疾患別勉強会で基本事項の理解を深め、症例検討会・画像カンファレンスや抄読会に参加し、学術的な理解を深める。

手術研修:

- ・手術室において、各種の手術見学(角膜移植手術、白内障手術、緑内障手術、硝子体手術、眼瞼手術など)、介助を実践する。
- ・レーザー治療室において、レーザー光凝固治療を見学、介助する。
- ・希望者はウェットラボに参加し、模擬眼を用いた眼科顕微鏡下手術を実体験する。

眼科緊急研修:

- ・指導医とともに、眼科救急患者の診療を行う。

IV. 経験できる疾患・手術など

- ・屈折異常(近視、遠視、乱視)
- ・前眼部疾患(角結膜疾患、翼状片、ドライアイなど)と手術(角膜移植など)
- ・緑内障、緑内障手術
- ・白内障、白内障手術
- ・網膜硝子体疾患(裂孔原性網膜剥離、黄斑円孔、黄斑上膜、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症など)と網膜レーザー光凝固治療や硝子体手術
- ・加齢性黄斑変性と治療(光線力学的療法や硝子体注射など)
- ・ぶどう膜炎疾患
- ・神経眼科疾患(視神経疾患など)と内科的治療
- ・外眼部疾患(霰粒腫、眼瞼内反症、眼瞼下垂など)、涙道、眼窩疾患と手術
- ・斜視、弱視疾患と斜視手術
- ・緊急を要する疾患(網膜中心動脈閉塞症、化学外傷、穿孔性眼外傷、急性緑内障)と応急処置

V. 評価 (Evaluation)

minimumEPOC・症例レポートによる自己評価・指導医評価。
指導医・看護師などによる形成的評価。

VI. 指導者と研修施設

1. 診療部長 吉田 茂生
2. 指導責任者 田口 千香子
3. 指導医 岩田 健作
4. 研修施設 久留米大学病院

VII. 週間予定

月	8:30	外来・手術・病棟
	14:00	病棟回診(教授)
	17:30	抄読会・症例検討会
火	8:30	外来・手術・病棟
	18:00	ウェットラボ
水	8:30	外来・手術・病棟
木	8:30	外来・手術・病棟
	18:00	画像カンファレンス
金	8:30	外来・手術・病棟
土	8:30	病棟

